

第2学年4組 道徳学習指導案

- 1 日 時 平成27年12月2日(水) 第5校時 2年4組教室
- 2 主題名 弱さや醜さを克服し、生きる喜びを(D-22 よりよく生きる喜び)
- 3 資料名 「カーテンの向こう」 出典：明るい人生1年(愛知県教育振興会)
- 4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値観

本主題は、中学校の内容項目D-22「よりよく生きる喜び」をもとに設定したものである。「よりよく生きる喜び」とは、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすことである。誰でも、自分に自信がもてなかったり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。誰の心の中にも弱さや醜さがあり、自分を律することができずついつい怠けてしまうこと、してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこと、他人の不利益を予想しつつ自分の利益を最優先にして行動してしまうこともある。しかしながら、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。人間は、総体として弱さを持っているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気づくことができると考える。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、男子20名、女子13名の33名学級である。全体的に落ち着いており、まじめで穏やかな生徒が多い。道徳の授業では、自分の考えを伝えることの喜びを感じている生徒や、他人の意見を聴くことが楽しいと感じている生徒が増えつつある。しかし、自分の考えをみんなに伝えることができない生徒もまだまだ多い。集団としては、自分と他人を尊重し、支え合う雰囲気ができつつあると感じられる。そんな中で自分に自信がもてなくなり劣等感にさいなまれたり、他人を妬んだり、羨ましく思っている生徒も見られる。このような実態を踏まえ、本主題を通して、人間のもつ弱さ、醜さを受け止め、それを乗り越えていく強さと気高さを感じ取らせ、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を考えさせ、感得させたい。

(3) 資料とその活用について

本資料は、ヤコブに対する妬みや、ヤコブの死を心の奥底で笑う心情が、「私」の心の動きを中心に描かれている。さらに、カーテンの向こうがレンガの壁であったことを知った「私」が、その後、病室の人たちにどんなことを話し伝えるのか、また、ヤコブがなぜ嘘をついたのか、理由についても深く考えさせながら、人間のもつ心の気高さやすばらしさに感動できる資料であるといえる。

指導にあたっては、導入で「命」と聞いて、思い浮かぶ色を考えさせることで方向付けを行う。資料を語ったあと、中心発問で「私」の今の気持ちについて考えさせていきたい。ヤコブの思いをうけて、カーテンの向こうがレンガの壁であったことを伝えるか伝えないかという立場をはっきりさせてから、意見を出し合うことで、より意見が深まると考える。本授業を通して、自分の心の弱さや醜さと向き合うことで、人は誰でも誇りや良心にしたがって生きようとする心があることに気づき、共に人間として生きる喜びを感じ合っていこうとする意欲を高めさせていきたい。

(4) 抽出生徒について

①抽出生徒Aについて

普段は明るく元気に振る舞い、笑顔で過ごしていることが多いが、自分自身に自信をもてず、マイナス思考におちいることがある。そこで、本時を通して、自分の心の弱さを受け入れ、それを乗り越えていく強さと気高さを感じてほしい。

②抽出生徒Bについて

昨年度も担任をしていた生徒で、「カーテンの向こう」の内容項目を[B-(6)思いやり]で行った際には、目に見えないヤコブの思いやりに共感し、思いやりの大切さに気づくことができた。本時では、「私」の今の気持ちを考えることで、これから先をより良く生きていこうとする考えに気づいてほしい。

5 本時の学習

- (1) ねらい 自分の心の弱さや醜さと向き合うことで、人は誰でも誇りや良心にしたがって生きようとする心があることに気づき、人間として生きる喜びを感じ合っていこうとする意欲を高める。
- (2) 準備 言葉カード、場面絵
- (3) 展開

	学習活動（主な発問と予想される反応）	指導上の留意事項
方向付け	1 「未来」と聞いて、思い浮かぶ色を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・赤色 明るい色だから。 ・白色 まだ何も決まっていなくて、何色にもなれるから。 ・水色 未来ときいて、空が思い浮かんだから。 ・オレンジ色 前向きな感じがする。明るい未来にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値への方向付けと資料への導入を図る。 ・自分と向き合うとき、違和感を感じる発言こそ学びの対象として、大切にするように伝える。
ねらいとする価値の追究把握・自己の生き方の自覚	2 資料「カーテンの向こう」を聞き、話し合う。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① カーテンの向こうが冷たい壁であったことを知った「私」。「私」は今、どんな気持ちだろう。</p> </div> <p>ア：ようやく外の景色を見られると思っていたのに・・・。 とてものがっかりした気持ちになった。ヤコブが嘘なんてつかなければ、こんな思いはしなかったのに。</p> <p>イ：もっと素直にヤコブの話を楽しんでいればよかったな。 ヤコブのことを誤解していたことに対する後悔の気持ち。</p> <p>ウ：ヤコブを憎んだ自分が恥ずかしい。自分の醜さが嫌になる。最低なことを思ってしまった。</p> <p>エ：自分も病気で苦しい中で、みんなのために話をつくってくれていたことに対する感謝の気持ち。自分たちを楽しませてくれて、ありがとう。</p> <p>オ：次は自分がヤコブにかわって、みんなに希望を届けなければいけない。でも、ヤコブと同じことができるかどうか不安。</p> <p>カ：私がみんなの楽しみをなくすわけにはいかない。これからも心が温くなる話をつくっていこう。ヤコブの意思を引き継いでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「私」の考えや思いが直接書いてある部分は言葉カードにし、そうでない部分と色分けをして、教師が語りながら資料提示をする。 ・自分の考えをまとめる時間をもうけた後、全員起立した状態からスタートする。自分の考えと同じ意見が出たところで着席するように指示する。 ・意見を分類しながら板書する。意見を出し合った後で、自分の考えに近い意見を選び、理由を伝え合うなかで、考えをさらに深めていく。 ・理由を述べたり、質疑応答したりすること自体が大切で、価値への理解を深めたり、自己の価値観の自覚を深めたりする。 ・違和感を感じる発言こそ学びの対象として、大切にすること。

	<p>①' 級友の発言で、「はっとした」「なるほど」「参考になった」発言はどれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと考えていこうという考えは自分にはない考えだったので、なるほどと思った。 ・ヤコブが悪者のままでは嫌だという気持ちを聞いたとき、はっとした。確かにその通りだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はっとした」「なるほど」「参考になった」など、自分の中にはなかった新しい考えに注目するように促す。 ・級友から学んで変化、成長できたことを出し合わせることで、お互いに認め合う時間とする。
ま と め	<p>3 「私たちの道徳」P120～122を読み、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは生きている「今」を大切にしながら、自分自身が誇れる生き方をしていきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業で感じたことに加えて、「これからは・・・」という視点で考えるように指示する。

6 評価

カーテンの向こうが冷たい壁であったことを知った「私」の気持ちを考えることを通して、自分の心の弱さや醜さと向き合うことで、人は誰でも誇りや良心にしたがって生きようとする心があることに気づき、共に人間として生きる喜びを感じ合っていこうとする意欲を高めることができたか。

<授業前>

<授業後>

- ・自分の弱さ、醜さにあまり目を向けていない。
- ・弱さ、醜さを見つめることで、それを何とかしようとする自分の中に、生きる喜びを感じるとは思えない。



- ・自分の弱さ、醜さが気掛かりになってきた。もっと真剣に見つめていきたい。
- ・弱さ、醜さを見つめることで、それを何とかしようとする自分の中に、生きる喜びを感じることができると考え始めてきた。

7 板書計画

